

# Rotary 週報



## 第2回例会概要

◆会場 竹乃屋福岡空港店 ◆時間 11:15 ~ 12:00

◆参加者 合計 25名

会員 22名(現地 15名 ZOOM7名)

ゲスト 1名 ビジター5名(現地 6名 Zoom0名)

出席率:88%(21/25)ビザー:

①福岡城南 RC 森永幸次郎 様(セイビ九州 代表取締役社長／次年度第4グループ ガバナー補佐)

②福岡イブニング RC 力徳 様(セイビ九州 取締役)

③宗像 RC 中村 光 様(※卓話者 国際ロータリー第 2700 地区 ロータリー財団委員長)

④福岡城南 RC 東(ヒガシ)重樹 様(東翔資産管理 代表取締役／地区米山委員)

ゲスト:

中島伸也様(福岡エアポート RC 入会希望者／Crystal 医科歯科 Clinic International 代表／職業分類 歯科医)

◆本日のプログラム

1. ロータリーソング(ソングリーダー 舌間会員)、四つのテスト唱和(祐恒会員)
2. 来賓紹介
3. 会長挨拶
4. 幹事報告・委員会報告
5. 年次総会
6. 卓話(地区ロータリー財団委員長 中村 光 様)
7. 謝辞・連絡事項



## 会長挨拶 田村志朗

みなさん、こんにちは。

本日も第2回の例会にご参加いただき、ありがとうございます。創立例会からまだ数日ですが、こうして皆さんとまた顔を合わせられることを、とても嬉しく感じています。

さて、今日の「会長おすすめの一冊」は、生物学者・福岡伸一先生の『動的平衡』です。名前だけ聞くと難しそうに聞こえますが、実は私たちのすぐそばにある考え方でもあります。

この姿を最も美しく言い表したのが、鴨長明の『方丈記』の冒頭です。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」川は切れ目なく流れ続けていますが、その水は一瞬たりとも同じではない。それでも川という形は保たれている。動きながら保たれる——まさに動的平衡です。私は、この考え方はロータリークラブそのものにも自然に重なると思っています。

組織というと、変わらないことに価値が置かれがちですが、変わらないというのは、生命でいえば新陳代謝が止まった状態です。古いものばかりが蓄積し、新しいものが入ってこなくなると、やがて活力を失っていきます。私たち福岡エアポートロータリークラブは、スポンサークラブを持たず独立して創られたクラブで、空港という開かれた場所を拠点に、DXを取り入れ、オンラインとオフラインを柔軟に組み合わせるというスタイルを選びました。これは従来のロータリーから見れば新しい挑戦ですが、同時に“変化を受け入れながら前へ進むクラブ”という動的平衡の姿ともいえると思います。

変化し続けるからこそ、クラブは若々しく、健やかでいられる。そして、変えてはならない理念——ロータリーの精神——だけはしっかりと守っていく。そんなクラブを皆さんと一緒に育てていきたいと願っています。

そして今日の卓話は、この“動き続けるロータリー”を支える仕組みそのものについてのお話です。本日は、地区ロータリー財団委員長の中村光さんをお迎えし、ロータリー財団について分かりやすくご説明いただきます。

財団は、ロータリーの新しい奉仕を生み出す循環装置であり、世界への新陳代謝であり、理念を未来へ受け渡すための仕組みです。動的平衡という考え方とも深く響き合っています。

私たちがこれからどんなクラブへ育っていくのか、そのヒントが今日の卓話にたくさん込められていると思います。

それでは本日も、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 幹事報告 入江良太郎



本年度、福岡エアポートロータリークラブと同様に新たに誕生したクラブである、国際ロータリー第 2710 地区 広島新世代ロータリークラブおよび第 2720 地区 大分折々ロータリークラブと、友好クラブを締結することが決定しました。本件については、各クラブの理事会において承認がなされましたので、ここに報告されました。

友好クラブとは、親善、相互訪問、提携協力などを通じて、地域社会の発展に寄与することを目的とし、互いのクラブを尊重し合いながら協力関係を築いていくものです。

今後は、クラブ間の相互訪問なども予定されており、積極的な交流を通じて良好な関係づくりを進めていく方針が示されました。続いて連絡事項として、本日例会閉会終了後に年次総会を開催することが案内されました。総会の議題は、2027-28 年度会長ノミニー承認の件となっております。

また、総会終了後には、チャーターナイトに関する進捗状況の報告および担当者の再確認を行う予定であることが共有され、会員への協力が呼びかけられました。

## 委員会報告 公共イメージ委員長 竹下



公共イメージ委員会より、マイロータリー登録の進捗状況について報告がありました。

現在、当クラブにおけるマイロータリーの登録率は 88%に達しており、クラブ全体として高い登録率を維持していることが共有されました。

一方で、残り 12%の会員が未登録となっているため、今後は公共イメージ委員会として、個別に登録手続きのサポートを行い、全会員登録を目指していく方針が示されました。マイロータリーは、ロータリー情報の共有や各種手続き、地区・国際ロータリーからの最新情報を受け取るための重要なツールであることから、未登録の会員に対しては、積極的な登録への協力が呼びかけられました。

## 弔意報告・会長挨拶補足

先々週、田村会長のご親族（ご尊父）ご逝去の報告がありました。これを受け、毛利会員より弔意が手渡され、会員一同でご冥福をお祈りしました。

田村会長より、ご尊父の逝去について経緯とご挨拶が述べられました。ご尊父は本年10月にご自宅で亡くなられており、後日その事実が判明したことから、葬儀等の対応に時間を要したことでした。葬儀は近親者のみで執り行われる予定であることが説明されました。

また、この一週間は私事対応のためクラブ活動に十分関われなかつたことへのお詫びとともに、福岡エアポートロータリークラブへの強い思いが語られ、葬儀後は通常どおり活動に復帰し、会員とともにクラブ運営に尽力していきたいとの決意が述べられました。

## ニコニコの紹介

舌間会員より、ニコニコの紹介が行われました。福岡エアポートロータリークラブ設立にあたり、多くの祝意と激励が寄せられました。

福岡城南ロータリークラブ 東 重樹 様より、「福岡エアポートロータリークラブ設立おめでとうございます。今後のご活躍を応援しております」との温かいメッセージとともにご寄付を頂戴しました。

また、福岡城南ロータリークラブ 森永幸次郎 様、ならびに福岡イブニングロータリークラブ 力徳 様より、「この度はクラブ設立、誠におめでとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします」との祝意が寄せられました。



## 年次総会報告(会長ノミニ一承認)



先ほど案内のとおり、例会閉会後に年次総会が開催されました。

総会では、**2027-28 年度会長ノミニ一承認の件**について審議が行われ、理事会での協議結果を踏まえ、毛利会員を同年度の会長ノミニ一とする提案がなされました。

出席会員による承認を諮った結果、異議なく承認され、毛利会員が 2027-28 年度会長ノミニ一に決定しました。

承認後、毛利会員より一言挨拶がありました。毛利会員は、これまでの職歴に触れつつ、本件を重く受け止め、今後一年半をかけて会長就任に向けた準備と研鑽に努めていく決意を述べられました。また、会長職を務めるにあたっては、会員一人ひとりの支えと協力が不可欠であるとして、今後のご支援をお願いする言葉が述べされました。

## チャーターナイト準備状況報告

チャーターナイト(認証状伝達式および祝賀会)について、準備状況および今後の対応について説明がありました。

本行事は 2025 年 1 月 21 日(水)17 時～20 時 30 分に開催予定で、会員全員参加とし、当日は記念写真撮影も行う予定です。

現在の進捗として、記念品(クラブロゴ入りグラス)は準備完了しており、会食については会場である竹乃屋と打ち合わせを進めています。登録者数は約 140 名弱と当初予定より約 20 名多く、会場は 3 会場すべてを使用しての開催となります。当日は空港の夜景も望める会場となる予定です。

余興については、藤川会員の紹介によりオカリナ演奏を予定しており、現在調整中です。今後は各委員会が連携し、以下の準備を進めていくことが確認されました。

- ・プログラム委員会:式次第および台本作成
- ・会場設営委員会:音響、テーブル配置、備品等の確認
- ・参加者管理委員会:席順表および当日出席表の作成
- ・来賓対応:来賓への事前対応
- ・司会進行:台本共有による円滑な進行

チャーターナイトまでの例会は残り1回となるため、今後は委員会および会員間で個別に連絡を取り合い、準備を進めていくことが呼びかけられました。

あわせて、チャーターナイトの概要について説明がありました。本行事は二部構成で行われ、第一部は認証状伝達式として、国際ロータリーより正式に承認されたことをガバナーより伝達いただく式典となります。当クラブが主役となり、挨拶や会員紹介のほか、広島新世代ロータリークラブおよび大分折々ロータリークラブとの友好クラブ締結に伴う調印式を予定しています。

第二部は祝賀会として、来賓・参加者をお迎えし、おもてなしを行います。当日は地区内外より約120名が参加予定で、地区役員、パストガバナー、各クラブ会長等の来賓が出席予定です。また、名古屋メイドロータリークラブ 坂本会長、福岡空港 田川社長を来賓としてお招きしています。

第一部では当クラブが主役として認証を受け、第二部では来賓を主役としてお迎えするという趣旨を共有し、会員一丸となって心のこもったチャーターナイトを実現していくとの呼びかけがなされました。

## 卓話の時間 地区ロータリー財団委員長 中村 光 様(宗像ロータリークラブ)



例会において、国際ロータリー第 2700 地区ロータリー財団委員長の中村 光 様より、「ロータリー財団の役割と活動」について卓話をいただきました。開始時刻の認識違いにより到着が遅れた旨のお詫びがありましたが、限られた時間の中で充実した内容のご講話が行われました。

冒頭ではご自身のロータリー歴と地区での活動について紹介があり、ロータリー財団委員会で長年活動されてきた経験を踏まえ、財団の基本的な仕組みについて説明されました。国際ロータリー(RI)とロータリー財団(TRF)は別組織であり、RI が奉仕活動を「推進」するのに対し、財団は資金面からそれを「達成」する役割を担っていることが強調されました。

続いて、ロータリー財団の最重点事業であるポリオ根絶活動について解説がありました。ポリオは治療法のない感染症であり、ワクチン接種が唯一の予防策であること、日本では症例がなくなった後も予防接種が続けられている理由、そして現在もパキスタンとアフガニスタンの 2 か国で根絶に向けた活動が続けられている現状が紹介されました。ガザ地区での感染再発例などを通じ、世界的な支援の重要性が示されました。

また、ロータリー財団の補助金制度について、地区補助金およびグローバル補助金の仕組みが説明され、国内外で実施されている具体的な奉仕活動事例が紹介されました。環境保全、教育支援、防災、高齢者支援、海外での医療・水環境整備など、多岐にわたる活動が、会員からの寄付を原資として実現していることが共有されました。

さらに、ロータリー財団奨学生制度や平和フェローシップ、\*\*職業訓練チーム(VTT)\*\*といった人材育成事業についても説明があり、ロータリーが世界理解と平和の実現に向けて長期的視点で取り組んでいることが紹介されました。

後半では、ロータリー財団への寄付の意義と認証制度について説明があり、年次寄付目標やポール・ハリス・フェローをはじめとする各種認証制度が紹介されました。寄付は世界中の支援を必要とする人々のもとで確実に活用されており、ロータリー財団は米国の慈善団体評価機関から長年高い評価を受けていることも述べられました。

最後に、「会員一人ひとりの寄付と奉仕のアイデアが、世界のどこかで誰かを救っている」と述べられ、ロータリー財団への理解と協力を呼びかけて卓話を締めくられました。

## 卓話謝辞 田村 志朗 会長



中村 光 地区ロータリー財団委員長による卓話に対し、田村会長より謝辞が述べられました。

当クラブでは、地区目標である年次基金 150 ドルおよびポリオプラス 30 ドルについて、会費にあらかじめ組み込む仕組みを採用しており、会員個々に追加の寄付をお願いすることなく、常に 100% 達成できる体制を整えていることが説明されました。これは、寄付を「特別な負担」ではなく、ロータリー活動の一部として位置づけ、会員が奉仕活動そのものに専念できるようにするための工夫であると述べられました。

また、米山記念奨学会への寄付についても同様に会費に含めていることが紹介され、当クラブでは全会員が平等にロータリー財団および米山への支援を行う仕組みとなっていることが強調されました。

そのうえで、寄付を仕組み化している以上、当クラブとしては補助金を活用し、実際に奉仕プロジェクトを実行する側になることが重要であるとの考えが示されました。今後は、奉仕プロジェクト委員会およびロータリー財団チームが連携し、地区補助金やグローバル補助金を活用した事業に積極的に取り組んでいきたいとの方針が述べられました。

特に、国際ロータリーの一員として、海外を視野に入れた奉仕活動にも挑戦していきたいとの意欲が語られ、会員からのアイデアを持ち寄りながら、将来的な国際奉仕プロジェクトの実現を目指す考えが示されました。

最後に、ロータリー財団の仕組みを分かりやすく説明いただいたことへの感謝が改めて述べられ、今後ともご指導・ご支援をお願いしたいとして謝辞が締めくられました。



## 委員会報告 クラブ管理運営より

今後の課題を以下のように整理をし、順次解決していく予定です。

議題	現状の課題	対応案・提案	決定状況
例会運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>受付が煩雑、幹事負担大</li> <li>ドリンク提供に時間がかかる</li> <li>出席率集計が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコード+紙記入併用</li> <li>ドリンクはセルフサービス形式</li> <li>受付で現金回収+席でQRコード読み込み</li> </ul>	ドリンクは12月17日例会より実施。他は検討中。
キャッシュレス化	<ul style="list-style-type: none"> <li>現金取り扱いによる手間</li> <li>法人名義や手数料の問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PayPay やクレジット決済導入</li> <li>ニコニコ寄付をLINEやフォームで電子化</li> </ul>	検討中
チャーターナイト準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>会場レイアウト未決定</li> <li>料理メニュー未確定</li> <li>音響・Wi-Fi 不安定</li> <li>司会進行表未作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡らしいメニュー(明太パスタ・博多餃子)</li> <li>音響機材追加、マイク配置</li> <li>Zoom音声改善</li> <li>司会進行表作成</li> </ul>	未決定
デジタル化・効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>議事録作成に時間がかかる</li> <li>出席管理が手作業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字起こしアプリやWordディクテーション活用</li> <li>出席管理・寄付の電子化</li> </ul>	検討中
親睦・会員維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割の偏り</li> <li>若手会員の参加が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な交流会開催</li> <li>役割分担の見直し</li> </ul>	検討中



# 福岡エアポートタリークラブ チャーターナイト準備 (2025.12.23 女子部+竹下@コバコバル)

## 1. 会場まわり (テーブル/入口/司会/演台)

- ・テーブル装飾: 宮崎さんご友人へ発注 (アーティフィシャルフラワー小ぶり 1,500円×20個)
- ・テーブル番号: 入江さんが作成するか要確認
- ・ウェルカムボード等: 竹下さんが入口の看板・横断幕を作成予定
- ・追加装飾 (胡蝶蘭等): 松尾が持ち込み予定 (清水さんが小倉に来られる際に預ける)

## 2. 来賓控室

- ・控室の場所・飲み物: 未確定 (要決定)

## 3. 祝賀会 (リボン/アテンド)

- ・リボン: 会員=黄色、来賓=赤 (いずれも未注文)
- ・テーブルアテンド: エアポート会員が各1テーブル一人担当 (会長・幹事を除き 20テーブル)
- ・祝賀会後: 二次会へ案内

## 4. 二次会 (案内/予約/移動)

- ・候補: 都ホテルのバー/ホテル日航『夜間飛行』等
- ・女子部下見後の案: ホテル日航『夜間飛行』 (1人 6,000円・税サ込)
- ・予約人数: 30名または40名 (当日+10名程度の増でも対応可能)
- ・移動: エアポート会員がタクシー手配し会場までアテンドする (1台3名目安)
- ・タクシー代: 会員立替 → 後日クラブで精算
- ・最新状況: 12月24日田村会長・入江幹事へ相談のうえ再検討の余地あり (候補: Precious ONO HAKATA等)。12月末までに最終決定予定

## 5. 記念品

- ・紙袋/グラス/本等: 発注・セット・保管場所が未定 (桑野さんへ確認)

### 【未決定・要確認 (ToDo)】

- 来賓控室: 場所・飲み物を確定
- テーブル番号: 作成担当 (入江さん) を確定
- リボン (黄色/赤) の発注
- 二次会会場の最終決定 (12月末目標)
- 記念品: 発注~セット~保管場所の確定



## 今後の予定

### 例会

- 1/7 (水) 第3回例会（クラブ協議会①）
- 1/21 (水) 第4回例会（チャーターナイトと同日開催）
- 2/4 (水) 第5回例会（卓話：戸嶋和夫 ガバナーエレクト）
- 3/18 (水) 第8回例会（会員卓話）

### 行事

- 1/21 (水) チャーターナイト（認証状伝達式・祝賀会／竹乃屋福岡空港店 18:00～）
- 2/14 (土) 第4グループIM（インターネットミーティング／第6回例会扱い）
- 3/8 (日) 地区大会（第7回例会扱い）

週報チーム 文章 尾松 隼 写真 竹下誠雄